

2019 年度 事業報告書

公益財団法人 日本 AED 財団

I. 事業期間

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

II. 事業報告

「心臓突然死から市民を救うことを目的とし、もって我が国における安全安心を確保することを目指す」という財団の理念に基づき、School（学校への心肺蘇生・AED 教育の普及促進、学校での心臓突然死ゼロを目指した取り組み）、Sports（スポーツ現場への心肺蘇生・AED 教育の普及促進、AED 活用体制の整備によるスポーツ現場での心臓突然死ゼロを目指した取り組み）、Social（社会運動と Social Network を活用した救命システムの確立と普及、情報発信）の 3 つの S に基づいて、取り組みを行った。

設立 4 年目を迎え、12 月 20 日付 内閣総理大臣より公益財団法人として認定を受けた。事務局機能の強化、必要な事業資金の獲得に力を入れ、財政基盤を確かなものとしつつ、組織基盤も盤石なものとするよう努力しているところである。

III. 会議開催

定款に基づき以下の会議を開催した。

評議員会(3回)：5月20日(於：KKR ホル)、8月27日(書面開催)、12月16日(書面開催)

理事会(5回)：4月16日・5月20日・9月11日・12月13日・3月17日

(於：5/20 KKR ホル、12/13 世界貿易センタービル、それ以外事務局他)

実行委員会：(2回) 6月19日(於：京大東京ワイス)・9月11日(於：TKP 会議室)

《主な取り組み》

(1) 社会全体に対して行う事業

①減らせ突然死 AED 推進フォーラム 2019～心臓突然死から命を救う 仕組みと仕掛け～を開催

AED の重要性を広く訴えるため、専門家の講演・シンポジウム・討論を行なった。12 月 13 日、世界貿易センタービルにて、「心臓突然死から命を救う 仕組みと仕掛け」をテーマに、名誉総裁である高円宮妃殿下のご臨席を賜って開催された。

妃殿下よりお言葉をいただいた後、基調講演で AED の有用実績の解説、また AED で救命された方の体験談が披露された。シンポジウムでは「学校で若い命を救う救急マニュアル」「スポーツ場面における迅速な救急対応」「市民の協力で命を救う」について講演が行われた。その後、鈴木大地スポーツ庁長官、有森裕子 AED 大使、村井満顧問(J リーグチェアマン)、武田聡理事によるディスカッションを行い、有益なご意見をいただいた。

後半は AED 功労賞の表彰式を行った。

第二部の懇親会では、引き続き高円宮妃殿下のご臨席を賜り、大塚義治評議員(日本赤十字社社長)、横川浩様(日本陸上競技連盟会長)、中西壽子様(全国ママさんバレーボール連盟代表理事) よりご祝辞をいただいた。一部は約 200 名、二部は約 100 名の参加となった。

②表彰事業（AED 功労賞）

AED の利活用促進の為に仕組みや仕掛け作りに貢献した個人や団体を表彰し、さらなる利活用を促進することを目的に表彰事業を実施した。AED を活用して救命に関わった個人・団体を全国から自薦・他薦を得るためホームページ上、チラシ等により広く募集した。選考委員による公平な審査を経て①のフォーラムで表彰後、ホームページ上・広報誌で取り組みを広く社会に発信した。

今年度は下記 3 件が表彰された。

【最優秀賞】つくば市教育委員会 様

「つくば市教育委員会による教育課程への位置づけ」

【優秀賞】アパグループ株式会社 様

「アパグループの AED 導入と社員の救命講習受講の取り組み」

【優秀賞】夏野菜カレー（学生の有志グループ）様

「スポーツ観戦現場における心臓突然死への対策「RED SEAT」の提案」

③情報発信

- ホームページや各種 SNS での情報発信を実施した。
- ホームページを改修し、より情報が伝わりやすいようにした。
- ニュースレターの発行。当財団の活動の周知と啓発に役立てた。
https://www.aed-zaidan.jp/user/news/93/le7fpp8c_9tt32pttme3ojsjp5fbtdl2.pdf
https://www.aed-zaidan.jp/user/news/112/q_48cvpfw1xt6lgccai54j9e8x-3c1ya.pdf?ctime=1585300221
- AED を学ぶための e ラーニング教材『心止村湯けむり事件簿』は好評により配信を継続。パンフレットを配布し、各地イベントでの普及活動を行った。
<http://aed-project.jp/>
- AED 大使の協力による情報発信
中村憲剛大使：サッカースタジアムでの AED 啓発ビデオに出演
蝶野正洋大使：10 月 4 日市民公開講座トークショー「みんなで救おう！AED と心臓突然死」に出演、防災イベント等で大使を務めていることをアナウンス
有森裕子大使：NHK 制作の TV 番組「未来スイッチ」で AED N@VI 紹介および登録へのよびかけ（5 月 2 日～6 月 2 日の 1 ヶ月間に 10 回出演）、AED 推進フォーラムにて発言
青木まり子大使：AED 推進フォーラムに参加、高円宮殿下が作詞作曲された曲を発信

④AED の管理・運用・サービスに関する調査・標準規格化の推進

案内標識（AED マーク）をはじめとした AED の管理・運用・サービス、並びに AED 本体の仕様についての情報収集を行い、経済産業省、厚生労働省、企業、消費者団体等に対して調査の実施・標準化の推進を働きかけることによって AED の使用頻度を高める環境の構築を図った。まずはその第一歩として AED マークの標準規格化（JIS 化）に取り組み、7 月には経済産業省から AED の JIS マークが発表された。

(2) スクール関連事業

① 学校教育関連団体との協働事業の推進（学習指導要領への記載）

小学校から始まる学校での救命教育を推進するため、小学校の学習指導要領への新規記載、中学校高等学校の指導要領における位置づけの強化、教員養成課程への救命教育の導入などを求める取り組みを進めた。

② 救命教育副読本等の配布

小学校安全教育用副読本を 20 万部作成し、ホームページや案内用チラシ等を通じて、広く小学校に紹介し、希望する学校(2,383 校、193,861 冊)へ配布した。また、配布した学校に対しては副読本を活用した救命教育に関するアンケート調査を行った。合わせて成人用の副読本も作成し、ホームページからダウンロードできるようにした。

③ 情報発信

教育現場への救命教育普及に関する情報と、教員による主体的な救命教育を促進する資料を集約したホームページを作成し、危機管理に関する具体的提案・実践校の取り組み紹介等の情報発信を行った。

<https://aed-zaidan.jp/aed-project/news/school/20191223.html>

2月14日には全国・東京都学校安全教育研究大会にて AED についての資料を出展協力した。
(於：調布市立第五中学校)

④ 学校版 EAP(エマージェンシーアクションプラン)の作成・配布

効率よく AED を配置し教育現場での心臓突然死を減らすために、学校関係団体、医療関係団体と連携し、学校においてどういった場所に AED を配置し管理すべきかの指針となる学校版 AED 設置ガイドラインを作成し、ホームページ・ポスター・チラシ等で広く社会一般に配布・配信を行った。

<https://aed-zaidan.jp/download.html>

⑤ スクールフォーラムの開催

救命教育導入への基盤を構築するため、研究委嘱校において、救命教育のモデル授業やシンポジウムを開催した。

2月5日大阪府吹田市立千里丘北小学校にて「学校での突然死ゼロを目指して～小学校からの教諭による救命教育の推進～」を開催。学校での突然死ゼロのため、小学校からの救命教育の推進を目指しスクール部会が中心となってフォーラムを開催した。

救命教育の公開授業・BLS（一次救命処置）の重要性と学校教育への導入についてシンポジウムを行い、約 120 名が参加し、教育現場での AED 教育の重要性についてご理解いただいた。

(3) スポーツ関連事業

① 提言『スポーツ中の心臓突然死ゼロを目指して』、及びスポーツ版 EAP(エマージェンシーアクションプラン)作成

迅速かつ適切に心肺蘇生の実施と AED を使用するために必要な準備や体制についての指針を作成し、安全なスポーツ環境のモデルを広く社会一般に案内提示している。日曜ランナーから本格的な競技選手まで、皆が安心してスポーツを楽しみ、競い合うことができる環境整

備を推進している。

②スポーツ施設の AED 設置場所ガイドラインや案内標識の見本提示

「2020 東京オリンピックパラリンピックに係る救急・災害医療体制構築を検討する学術連合体（コンソーシアム）」に当財団理事が委員として参加し、競技場や街中での AED の設置基準、AED 案内誘導表示の標準化について意見を述べた。また、ボランティアの救命講習会に講師として参加した。

③スポーツ中の心停止事故等に関する情報収集方法の検討

安全なスポーツ環境の構築のため、関係機関、スポーツ関係者・大学・研究機関の教員・研究者等の有識者と共に、データに基づいた救護救急体制の整備構築を提案し、安全なスポーツ環境の構築に繋げることを目指し、スポーツ中の心停止事故等に関する情報の収集方法について検討を進めた。

④スポーツを通じた心肺蘇生・AED の啓発

AED 普及のため、著名なスポーツ選手の影響力を活かしスポーツを通じて心肺蘇生・AED の情報発信を進めた。普及啓発用の映像を作成し、ホームページや映像コンテンツとして発信した。

- ・サッカーJリーグの試合中に中村大使が出演した AED 啓発映像を放映する会場が増えたことにより、他のスポーツ団体から依頼を受け、心肺蘇生・AED 講習会へ講師を派遣した。(4)④参照。
- ・5月19日開催の小学生ラグビー大会において AED 講習会を実施。小学生 40 名、保護者 11 名、プロ選手 12 名が参加。
- ・8月1日全国ママさんバレーボール連盟主催全国大会(奈良県五条市にて)に理事長出席。

(4) ソーシャルムーブメント関連事業

①各種団体と連携した社会活動の促進

AED の認知度向上を目的として、心肺蘇生・AED の利活用、普及促進につながる活動を各種団体(厚生労働省、消防庁、日本救急医療財団、日本心臓財団など)と連携して行なった。他の団体主催のイベントに参加し救命講座などの開催や、マスコミからの AED 取材への協力を行うことなどにより社会活動を促進した。

【研究・調査活動】

- ・総務省東北管区行政評価局と連携し、6月から、東北6県の県庁所在地内の合同庁舎等を対象として AED の利用環境整備に関する実態調査を実施。(太田実行委員)

【マスコミ取材等(新聞・TV等)への対応による促進活動】

- ・4月21日 TBS「名医のTHE太鼓判」青森のドクターヘリの話と AED の使い方を指導・収録。(武田理事)
- ・5月2日～6月2日 NHK『未来スイッチ』 AED 編(1分、3分、5分の番組)計19回の放送。(有森裕子 AED 大使による AED N@VI 登録方法の映像、AED の重要性、使用方法、講習会風景など組み合わせて3パターン)。期間中 AED N@VI への登録者数は5倍になり、

AEDの地図上の登録台数も2倍以上に増加。

- ・5月7日 フジテレビ 夕方のニュース番組「LIVE NEWS It」AEDですくわれたケース、AEDを使わず亡くなったケースを紹介。
- ・5月8日 NHK NEWS WEB「女性だとAEDが使われない？ 救命処置の男女差」について解説。(樋口顧問、石見専務理事)
- ・5月9日 NHK 首都圏ネットワーク出演、子供へのAED使用について解説。(石見専務理事)
- ・5月23日 佐賀新聞記事掲載 AED少女の死 広がる命の輪「断ち切ろう 悲しみの連鎖」、遺族ら普及活動に尽力として
(桐淵理事、桐田氏)
- ・6月21日 日本テレビ放送の「Oha!4 NEWS LIVE」に出演。一般のAED使用方法に加え、女性へのAED使用方法を説明。(本間実行委員)
- ・7月1日 老友新聞1面記事「救命の一助 AEDを知ろう」掲載。(武田理事)
- ・8月6日 「しんぶん赤旗 日曜版」AEDの効果と女性と子供に対しての適切な使用方法についての取材及び記事監修。(太田実行委員)
- ・8月29日 朝日新聞 記事掲載「AEDためらわず使おう」。(石見専務理事)
- ・9月16日 TBS 系列放送の「ピンチで生き残る知恵セブン」に出演し、AEDの必要性や使用方法などを解説。(本間実行委員)
- ・10月2日以降 NHK「1.5チャンネル」(WEB上の動画チャンネル)にて「命を救うために 女性へのAEDの使い方」「命を救うために 乳幼児へのAEDの使い方」の動画を常時公開。
- ・2月27日 読売中高生新聞 AEDの使い方について取材。(武田理事)

【関係団体のイベント等への参加による促進活動】

- ・6月14日 AEDメーカーのイベントにて「AED 戦略的設置と Call & PUSH」～AEDを躊躇せず使用するために～講演(講習会も実施)。(武田理事)
- ・7月7日東京歯科大、10月13日東京慈恵会医科大学で inochi 学生プロジェクトへの講演。(石見専務理事)
- ・9月1日防災の日の防災グッズ展(於:大阪梅田、災害防止研究所主催)にて講演とグッズ審査員対応。(石見専務理事)
- ・9月8日 救急の日 お台場でのイベント(厚生労働省、消防庁、日本救急医学会、日本救急医療財団)に出展。会場内のAED探しゲームや、来場者への心肺蘇生講習会の実施。(武田理事他)
- ・10月2日～4日、日本救急医学会総会・学術集会において、市民公開講座として心肺蘇生講習会の実施とAED機の展示。蝶野大使・武田理事による講演会も行った。
- ・12月4日 日本橋医師会向け講習会にて講演。(三田村理事長)
- ・12月5日 大阪蘇生アカデミーで主に救急従事者に向けた特別講演。(三田村理事長)
- ・2月12日 日本心臓財団設立50周年記念 健康ハート・シンポジウムにて理事長講演「スポーツにおける心臓病予防 ～心臓突然死を防げるか～」。(三田村理事長)

【著作物の監修等による促進活動】

- ・6月18日 『明るいくらしの家計簿』掲載予定 AEDに関する原稿の監修。(武田理事)
- ・10月25日 関連企業作成の冊子「心肺蘇生手順 300秒のキセキ」挿入ページ監修。(石

見理事)

- ・3月15日(株)童夢のWAVE出版『もしものときにきみならどうする?防災』のAED関連ページ監修。(本間実行委員)

【共催・後援】

共催：10月27日 JR西日本あんしん社会財団主催「いのちのリレー大会」(於：大阪駅時空広場)

後援：11月24日 inochi 学生プロジェクト「inochi Gakusei Mirai Forum2019 mini WAKAZOPavilion

②高精度全国AEDマップ『AED N@VI』の構築

ボランティアの協力を得て、精緻なAED設置情報を継続的に取得し更新し続けることの出来るAEDマップ(AED N@VI)を運用し、信頼性の高いAED設置情報を共有している。『救命サポーター』として登録したボランティアを通じてAEDの設置情報を受け取り、ホームページ・チラシ等で広く社会一般に公表した。

3月31日現在の登録数は

個人サポーター：4,840人、団体サポーター：55団体、AED登録台数：39,300台

③AED救命支援システムの普及に向けた課題の整理

心停止現場付近にいる登録ボランティアへ、消防を通じて心停止発生情報を共有し、AEDを現場に運ぶというシステムに関する課題の整理を行う事で、全国の既存AEDが活用される機会を増やす活動を行っている。AEDマップ・AED救命支援システム活用検討会を開催し、AEDの活用促進に向けた課題の発掘と解決策の検討を進めた。

※第一回検討会6月18日、第二回検討会2月21日

④AED講習会の開催

会員及びその他企業、スポーツ団体等から講師派遣の依頼を受け、AED講習の機会を提供している。また、全メーカーのAEDを揃えた財団事務所AEDショールームにおいても定期的にAED講習会を実施している。

講習会の実施は、企業への講師派遣9回、スポーツ団体への講師派遣8回、学校・自治会、その他への講師派遣4回、財団事務所での定期開催9回の計30回で、延べ1,900人の受講となっている。

以上